

平成 30 年度「小金井市 認知症安心ガイドブック」についてのご意見
当委員会委員各位からの回答まとめ

1. 装丁・レイアウト・文字等について

①形状の変更(6件)

- ・サイズが大きい
- ・冊子のようにしてほしい、挟み込むタイプは落したりバラバラして扱いにくい
- ・見開き4ページに気づかない人もいるのでは、p.2、3に開きたくなる工夫を、見開きではどこから読んでいいのか迷うことも、
- * 他、見開きは項目が判りやすいという意見も1件あり

②色の変更(5件)

- ・オレンジがきつい、明るさを下げる、黄色の部分が目を疲れさせそう
- ・色が多い
- * 他、手に取りやすくて良いという意見も1件あり

③ごちゃごちゃしている(4件)

- ・目次を載せたほうが良い、見る順番がわかりづらい
- ・文での説明よりチャートや図で簡潔にしたほうがわかりやすいものもあるのでは

④字が小さい(4件)

- ・活字が多いと高齢者の多くは読まない。字を大きくわかりやすく

⑤イラストがわかりにくい(3件)

- ・1ページ目判断力の低下のイラストが間違い探しのような
- ・カットできるイラストがあれば見直して記載内容をわかり易くしては
- * 他、工夫するとしたら学芸大学の学生さん等にお問い合わせするとかという意見も1件あり

⑥その他

- ・気づきチェックリストの情報がありすぎる。
- ・表紙の説明文 □認知症とは？の所「誰にでもかかる」ではなく、「誰でもがかかる」では？
- ・関連機関情報はもっと分かりやすくした方が良いと思う。(見出し文字を大きくするなど)
- ・進行表の症状、支援のポイントが分かり辛い。
- ・全体的によい。

2. 掲載内容について

①対象者がわかりにくい、対象者別や種類別に作成すべき(8件)

- ・項目によって対象者が入り混じっている
- ・配布場所にもよるが対象者を絞ってより簡略なものの方がよいのでは、
- ・高齢者向けなら字を大きくし内容を絞る、認知症ご本人向けであれば進行予防につながる

情報を充実させ絵などを交え分かりやすく楽しく読めるような工夫を、

- ・段階的に種類を作成(相談先はここです。認知症とは。包括は何をしてくれるところか。など)
- ・家族からは一目で見れるという意見もあれば重度のところはショックを受ける方もいる、軽度と重度と分けての掲載を

* 他、家族や関連機関向けであれば、今のままでよいと思うという意見も1件あり

②わかりやすくしてほしい(6件)

- ・各見出し、「権利擁護」、行政用語、専門用語をわかりやすく
- ・沢山の内容が入りすぎ、字が多い

③文言の訂正(3件)

- ・□知っていますか？以下が長すぎる、
- ・7頁の介護の欄の吹き出しの文章がおかしい、
- ・市外の相談窓口は不要、もっと家族会やサロンやカフェを紹介すべき(家族会参加者より)

④わかりやすい(3件)

認知症の母を見ているので沢山うなづけた

⑤ガイドブックであることはわかりやすい(2件)

⑥新たなご提案

- ・表紙の表題のところ、キャッチーな文章があると良いのではないかと。
- ・認知症Q&A みたいな身近な疑問への回答があると入りやすい。
- ・介護離職や抱え込みを防ぐような記述もどこかにあるといいのかと、感じた。
- ・ガイドブックの作製の目的や使用方法を簡潔にどこかに記載があると良いと思う。(追記 ケアマネ向けに説明を行った所、使用方法が分かってから見ると、分かりやすいとの声あり、目次など工夫する必要性を感じた)
- ・一番目立つところ(表紙の部分とか)に、連絡先の電話番号があると分かりやすい。
→出来れば、一本化(代表電話)されるとなおよい。

⑦その他

- ・「認知症があっても安心して暮らせるまちを目指して」とあるが、これを見て安心して暮らせると思えるか、という視点で、もう一度記載方法を見直しても良いかと感じた。
- ・ステージ別のサービスについて、簡単でも良いので、説明は必要と思う。すぐに、その他の資料を手に入れられる人の方が少ないと思うので。

3. 認知症施策について

- ・この認知症安心ガイドブックを手にとって認知症を少しでも正しく理解してくれると良い。
- ・対象によって表記方法も工夫が必要。
- ・認知症施策は年々進化するので、一緒にしない方がいい。
- ・市内の家族会では、新規参加者が減少している。周知活動や介護サービス事業に携わる方々からの紹介など課題と感じる。

- ・認知症に関する講習会を開催。
- ・地域包括センターが分かりにくいので、別の愛称があっても良いのではないか。
- ・「認知症があっても安心して暮らせるまちを目指して」と掲げていても、支援が追い付いていない状況が多い。地域の皆さんの理解・協力、支援者の努力、行政及び民間の充実したサービスがもっと必要。
- ・市全体で考えて行動に移す必要があるし、そのような動きもあったとしても、周知されていない。定期的に市報に認知症の方への対応方法などを載せるなど、出来たら効果的では。
- ・小金井市の施策決定は、時間がかかり過ぎている。後追いではなく、先頭を走らなくても、2番手グループでは行ってほしい。

4. 普及啓発について

- ・まずは地域包括支援センターの存在や役割を知ってもらうことが大切。
- ・院内、講演会、行事等での配布。
- ・サイズの小さな簡易版等があれば、もっと広く配布できるのでは。
- ・認知症の予防につながる習慣の欄に、続けて実践している機関も情報で上げてほしい。
- ・認知症安心ガイドブックをコンビニ等に置くなどの提案はどうなっているか。
- ・認知症安心ガイドブックは、今後サービス事業者など誰もが利用できるように活動をしていきたい。介護保険サービスでは賄いきれず、認知症高齢者の方が施設を選択してしまうケースが多い。ガイドブックがある以上、安心して認知症高齢者が住み続けられる街作りをしていかなければならない。ガイドブックでは社会資源など一覧で見れるため、CMの方々など活用して頂きたい。

5. その他

- ・認知症＝ダメという世間の多くの人々が持っているイメージを、認知症＝ダメではない。認知症があってもいろいろなサポートで仕事も生活も出来るという、不安を少しでも解消出来る内容になるともっと良い。
- ・ガイドブックを必要としている人の意見を聞くことができると良い。
- ・地域にいる認知症看護認定看護師の協力を得ることが大切。
- ・認知症カフェの方や社会福祉協議会の方からも、ガイドブックについてご意見頂きたい。
- ・近隣他市のケアパスを見たら分かり易かった。他市の方の意見も聞いてみるのもひとつでは。
- ・医師会員からの意見を例会の際に求めたが、全く返事がなく、私の意見となった。
- ・包括の営業時間ももっと延長すべき。また365日稼働するのが、介護の核となる事業所の責務では。